

事例 18 特別支援学校のOJT実践事例

教科指導（専門教科 福祉）の共有を図る

【教科主任として】

本校では、13名の教員が専門教科 福祉の授業を担当している。しかし、福祉を専門とする教員は2名しかおらず、専門性の向上が課題となっていた。そこで、指導の専門性を高めることを目的とした勉強会を企画した。授業担当者たちの「専門家ではないからこそみんなでやろう」という前向きな気持ちが効果的な勉強会につながった。

〈取組の内容〉

○福祉の指導について主体的に学ぶ場をつくる

専門教科担当者が打合せを行う場として、年間計画に月1回の分野等連絡会が位置付けられているが、日常的に指導内容について学び合ったり、共通理解をしたりする場があるとよいと考え、必要に応じて勉強会を実施することとした。

1. 実施回数 年度初めは月3、4回、6月以降も定期的に開催
2. 実施時間 平日放課後1～2時間程度
3. 内 容
 - ア 基礎知識の共有
 - ・福祉 ・介護とは ・介護の心構え等
 - イ 実践演習
 - ・ベッドメイキング ・食事介助 ・着脱介助
 - ・洗髪 ・家事援助 ・入浴介助 ・排泄介助等

○勉強会運営のポイント

1. 「集まれる人が集まればよい」という姿勢で、無理なく継続する
 毎回全員の参加は難しいため、5、6人の参加で運営している。参加できない場合は、Teamsで情報を共有している。参加者は皆熱心で、時間が過ぎるのを忘れるほど集中して学んでいる。
2. テーマはその時に必要なものを設定する
 「今月は〇〇をやりましょう」と事前に決めず、担当教員が指導に当たって苦労している点を重点的にテーマとすることで、参加者のニーズに応える内容とし、勉強会への参加意欲を高めている。
3. 指導の方向性についての共通理解を図る
 本校の福祉の授業における指導の方向性の確認や、生徒全員に共通して身に付けさせたい力を確認している。

【指導の方向性】体験的な活動を通して、生徒自身に「なぜそうするのか」という目的を考えさせることを大切にしている。

【若手教員の声】

勉強会での意見交換では、自分には思いつかない考え方が学べて、大変貴重な時間となりました。

指導目標や内容の共通理解を図ることで、教員が連携して生徒を育成しようとする意識が高まりました。

【教職18年目の教員の声】

福祉は体験的な活動や実践を通しての学びが多いので、専門の教員の経験から学ぶことは有意義です。

また実際に体験してみると、生徒の視点に立って指導することを意識できるようになりました。

これが成功の鍵！

⑤得意分野や指導力のある教員から学ぶ場をつくる

「経験値に関係なく互いに学び合う」ことに重点を置いた勉強会にするために、先輩教員が積極的に声掛けをして、質問しやすい雰囲気をつくっています。

④伝える工夫をする

勉強会に参加できない場合も、Teamsで情報を共有しています。

Teamsは、模擬授業の実践予定を知らせたり、指導案やワークシート作成について相談したりするなど、活用しています。

「車椅子を押すスピードは、高齢者が歩くスピードと同じにするとよい」ということを体験的に理解させることが難しいなあ…。



勉強会の様子

〈取組の成果〉

- ・勉強会を通して、生徒に「教える」だけでなく、「生徒が考える活動」を重視して授業を組み立てることの大切さを共通理解できるようになった。
- ・勉強会の参加者が専門性を高めたことで、自信をもって指導に当たれるようになった。また、新年度には、勉強会の参加者が、福祉を初めて担当する教員たちに「一緒にやろう」と声を掛け、リーダーシップを発揮する様子が見られ、人材育成の面でも成果があった。